

エコアクション21 環境経営レポート

株式会社ミヨシ

[適用期間] 2022年4月1日～2023年3月31日



発行 2023年5月27日

作成 村越 真織

1. 組織概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境活動実施体制
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営目標の達成状況
8. 環境経営計画の実施状況及びその評価結果
9. 来期の環境経営目標・環境経営計画
10. 環境関連法規等の順守状況の確認
及び評価の結果ならびに違反訴訟等の有無
11. 代表者による全体の評価と見直しの結果

弊社は創業以来お客様の多様な「発想をカタチに」にお応えすべく邁進してまいりました。リアルタイムで進歩する技術革新の中、知識と実績に裏打ちされた自社一貫体制による最先端の技術力で最大限の対応に取り組んでおります。

【社名】	株式会社ミヨシ
【代表者名】	代表取締役 杉山耕治
【所在地】	〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5-19-14 Tel 03-3692-0662 Fax 03-3696-9557
【環境管理責任者】	村越真織 〈E-mail〉 gad@miyoshi-mf.co.jp 〈URL〉 https://www.miyoshi-mf.co.jp
【事業内容】	(1) プラスチック製品の試作 (2) 射出成形金型の製作 (3) 射出成形加工 (4) 小ロットプラスチック製品の製作・加工 (5) 治具、機械部品の製作 (6) その他
【事業規模】	従業員数 20名（うちパート9人） 売上高 120,018千円（2022年4月～2023年3月） 床面積 404.1㎡

2. 対象範囲

【エコアクション2.1対象範囲】適用は全社・全従業員とします。

ミヨシが目指す姿は社会から必要とされ続ける会社です。

100年後もミヨシはものづくりで人々の生活を豊かにし、社会の役に立つ会社であり続けたいと考えています。

100年後の社会がどのようなになっているかは想像できなくても、どのような社会であってほしいかは考えることができます。

私たちは、未来の人類と地球上の生物にとって、持続的に発展できる社会であってほしいと考えています。

持続的に発展できる社会のためにはものづくりの過程で生じるエネルギーの削減や、作られたものがすぐに捨てられない、ライフサイクルが長い価値の高いものを作る必要があると考えています。

私たちはものづくりの過程で生じる環境負荷を抑えて、かつ、技術力を高めて人の役に立つものづくりを行うことを目指し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 自社において環境負荷低減の目標を作成し実行、持続する。
2. 環境に関する法規を順守し地域社会とのより良い調和を目指して行動する。
3. 環境目標として以下の5項目を重要項目とする。
 - ① 電気、化石燃料を適切に使用し、エネルギーの無駄な使用を抑えCO2排出量の削減に努める。
 - ② 生産活動における廃棄物の分別を実施しリサイクルを励行する。
 - ③ 水資源を保つ為に一人一人が節水を心がける。
 - ④ 化学物質の適切な使用と管理を行う。
 - ⑤ 環境負荷低減に関する自社の商品やサービスの販売促進を実施する。
4. 環境経営方針は従業員に周知し一丸となって遂行する。

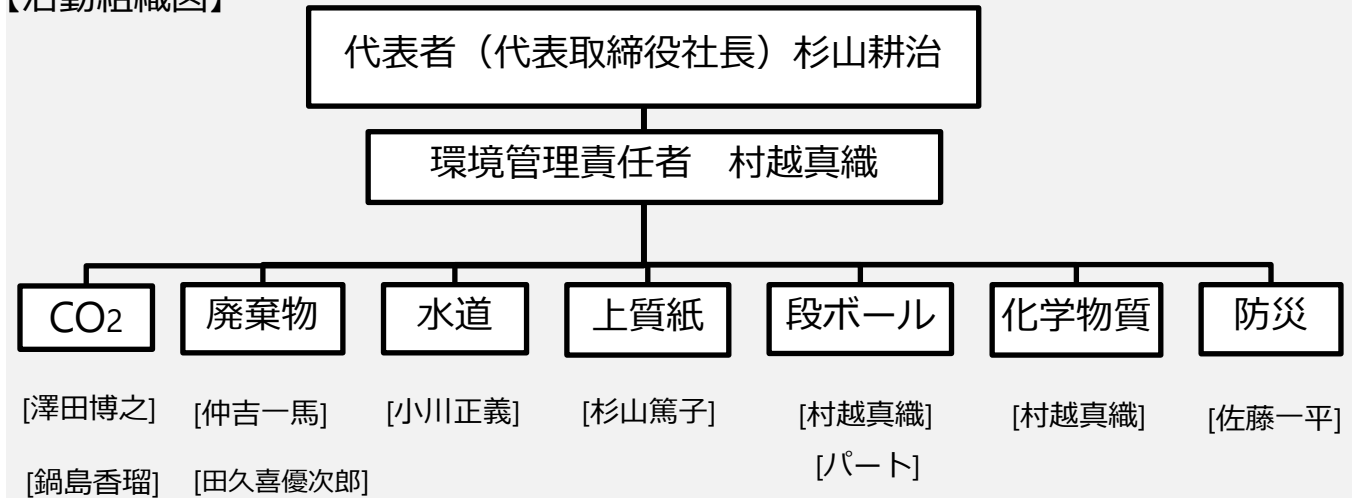
2006年11月制定

2018年 4月改定

株式会社ミヨシ

代表取締役 杉山耕治

【活動組織図】



	役割・責任・権限
代表者	・環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 ・環境経営システムの実施及び管理に必要な設備・費用・人・情報を用意 ・環境管理責任者を任命 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議にてコメント・評価・指示 ・代表者による全体の評価と見直しの実施 ・経営における課題とチャンスを整理し明確にする
環境管理責任者	・環境経営システムを構築・運用する（代表者からEA 2 1 の権限を委任） ・実施体制の構築（組織図及び役割・責任・権限） ・環境目標・環境活動実施計画書と実績表の作成 ・教育・訓練の実施を指示 ・環境上の緊急事態への準備・対応 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議の進行と記録 ・環境活動レポートの作成 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・EA 2 1 活動の推進 ・環境への負荷及び取組チェックを実施 ・環境関連法規等の取りまとめ表作成と遵守評価実施 ・環境関連文書・記録の管理
全従業員	・各々担当した環境項目について年間の活動内容の詳細を決める ・各担当ごとに必要な集計・グラフ化と全従業員への回覧 ・3ヶ月ごとのEA 2 1 活動報告会議にて活動状況の進捗を報告 ・年間の集計と次年度への引き継ぎ事項の報告

【今期の目標数値】〈2022年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 ●ガソリン ※1	前年度(2021年度)実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	前年度(2021年度)実績値 より-2%
ダンボール再利用	発送件数に対し再利用率 35%
水資源	前年度(2021年度)実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進

※1 ガソリンは営業活動に使用するため、目標数値の設定はせず、数値のみの管理とする

※2 当社の電気によるCO2排出係数は0.457(kg-CO2/ k Wh)〔東京電力エナジーパートナー〕

【中長期目標】〈2019年～2023年度まで〉

項目	基準値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO2排出量の削減	2018年度実績値	-2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%
廃棄物削減	2018年度実績値	-2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%
ダンボール再使用率	発送件数に対して	50%	50%	35%	35%	35%
水資源	2018年度実績値	-1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%
化学物質	—	適切な使用及び管理				
自社の製品・サービスの提案促進	—	環境負荷低減のため、弊社規格の交換ダイセットの提案促進				

CO₂排出量の削減

【電気使用量】

活動内容	詳細
◆電気使用量調査	月ごとに使用量をグラフ化し資料を回覧する
◆エネマネシステムの活用	ピーク電力の管理を行い、コスト削減につなげる
◆エアコンのメンテナンス	夏前、年末にエアコンのフィルタ清掃を行う
◆エアリークチェック	6月に工場のエアーガンのエアリークチェックを行う
◆エアコン使用基準の順守	各場所の特徴に合わせたエアコンの使用基準に沿った使用

【灯油】

活動内容	詳細
◆灯油使用量の削減	エアコンをメインで使用し、ストーブはスポット的に使用する
◆灯油購入量の削減	ストーブはスポットでの使用を行い灯油は必要分のみ購入する

【ガソリン】

活動内容	詳細
◆エコドライブの推進	エコドライブの呼びかけを行う
◆燃費の管理	可能な限り燃費の管理をする

廃棄物削減

【ごみの排出量】

活動内容	詳細
◆廃棄物量の集計	種類ごとの廃棄物量の集計と報告書の作成・回覧
◆廃棄物削減の工夫	無駄の無い材料の発注を行う 金型製作時の工夫により廃プラスチックの削減を目指す

【ダンボール】

活動内容	詳細
◆再使用率の調査	再利用したダンボールを大きさごとに集計する
◆エコシールの活用	再利用ダンボールにはエコシールを貼付する
◆再利用の呼びかけ	再利用の呼びかけを行う
◆実施状況の確認	発送前にシールの貼り忘れがないかチェックする

廃棄物削減

【上質紙】

活動内容	詳細
◆上質紙の分別と集計	再利用率を上げるために分別をしっかりと行い、集計をする
◆再利用の工夫	最大限に紙を無駄にしないように工夫する
◆FAX印刷の削減	印刷前に各担当に確認し、必要なものだけ印刷をする
◆用紙サイズ変更の検討	上質紙の使用量を減らすために用紙サイズの見直しを行う
◆印刷ミスを減らす	印刷前に内容・設定の確認を促す呼びかけを行う

水資源

活動内容	詳細
◆節水の呼びかけ	継続して節水の呼びかけを行い、無駄な使用をなくす
◆水の使用量の調査	水道メーターによる使用量チェックと請求明細の照合
◆成形機チラーの活用	水道使用量を減らすために成形機チラーを活用する

化学物質

活動内容	詳細
◆安全な管理	保管方法の確認を行い改善点があれば実施する
◆使用量の調査	薬品使用メモに使用の際は記入する

自社の商品・サービスの提案促進

活動内容	詳細
◆交換ダイセットの提案促進	材料の節約と保管スペースの縮小のため可能な限り提案する
◆自社製品の開発と販売	環境に配慮した材料を使用した製品の開発をし販売を行う

防災

活動内容	詳細
◆工場のラインテープの確認	工場での安全な動線確保のためラインテープのチェックを行う
◆AED救命講習	急病患者への対応とAEDの使用の仕方を学ぶ
◆社内の安全チェック	社内の危険箇所チェックを行い、対策を行う

2022年度 環境経営目標の実績

項目	単位	基準値 (2021年度)	目標[%]	目標値	実績値	前年比[%]	目標比[%]
電力量	kWh	100,197.0	-2%	98,193.1	90285.0	90%	-9%
	CO2-kg	46,291.0		45,365.2	41260.3		
灯油	L	18.0	—	0.0	60.0	—	—
	CO2-kg	44.8		0.0	149.4		
CO2目標分(合計)	CO2-kg	46,335.8		45,365.2	41409.7	—	-9%
ガソリン	L	1,971.1	—	—	1279.7	65%	—
	CO2-kg	4,573.0		—	2968.9		
CO2排出(合計)	CO2-kg	50,908.8	—	—	44378.5	102%	—
一般廃棄物	kg	1,133.0	-2%	1,110.3	1297.1	114%	+17%
産業廃棄物	kg	5,179.5	-2%	5,075.9	3918.4	75%	-23%
廃棄物(合計)	kg	6,312.5		6,186.3	5215.5	94.5%	-5%
ダンボール (再利用)	件	〈発送件数〉 627	35%	〈目標〉 219件	〈実績〉 150	再利用率 25%	
水資源	m ³	215.5	-1%	213.3	274.0	127%	+28%
化学物質			適量の使用および適切な管理を行った				
自社の商品・サービスの提案推進			・金型受注数のうち 85% は(交換ダイセット)で対応した ・今期より、手動の射出成形機専用の金型の受注開始				

◆基準値・・・前年度(2021年度)の実績値

◆ガソリンについては、営業活動に使用するため目標数値の設定はなし

◆当社の電気によるCO₂排出係数は、**0.457(kg-CO₂/kWh)** [東京電力]

◆段ボールの発送件数には運送会社指定の段ボール分は含まず

CO2排出量の削減 ◆電気使用量

◆電気使用量の調査

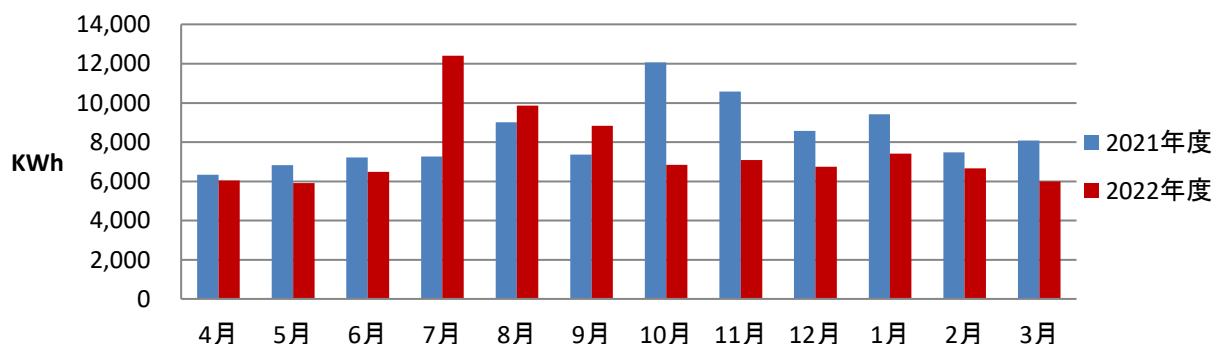
今期も引き続き前年度との電気使用量の比較グラフの回覧を行った。(グラフ1)

前期と比べ今期は90%程度に納まり、目標値からも-9%となった。

使用量の変動の原因には、エアコン使用と機械の稼働率の影響が大きいと思われるが、来期以降も無駄な電力の消費を抑えるように意識して行動したい。

〈グラフ1〉

電気使用量比較表



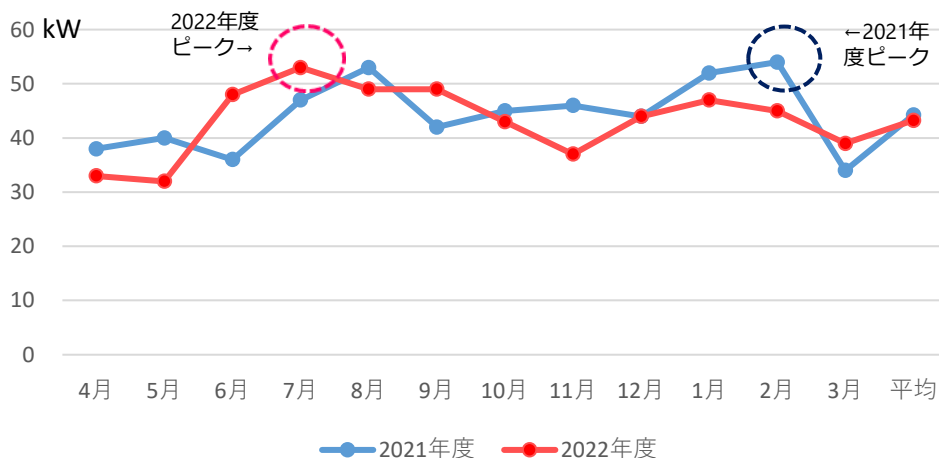
◆エネマネシステムの活用

電力会社のエネマネシステムを利用し、ピーク電力の測定値の確認を行った。(グラフ2)

機械の電源を入れる時間をずらすなどの対策はしていたが、今期は7月に年間の最大ピーク電力となった。前期は冬季2月がピークだったため、エアコンのタイマーセット時間を30分以上ずらし、機械の電源を入れる時間も注意し対応した。来期も機械・エアコンの稼働状況を事前に確認し、7~8月と2月は注意深く経過をみて対策をとる。

〈グラフ2〉

【ピーク電力比較グラフ】



CO2排出量の削減 ◆電気使用量

◆エアコンのメンテナンス

夏のエアコン使用前と、冬季の暖房使用前に社内のエアコンのフィルター清掃を行った。工場のフィルターは油汚れが多く、事務所や作業室はほこりで詰まりやすい。半期に一度のフィルター清掃を実施し、設備が効率良く機能するように継続していく。



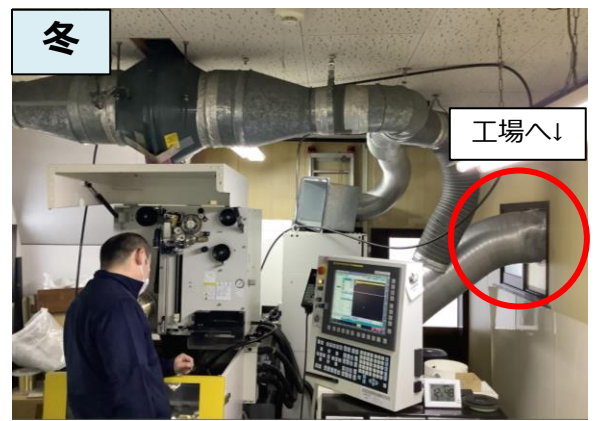
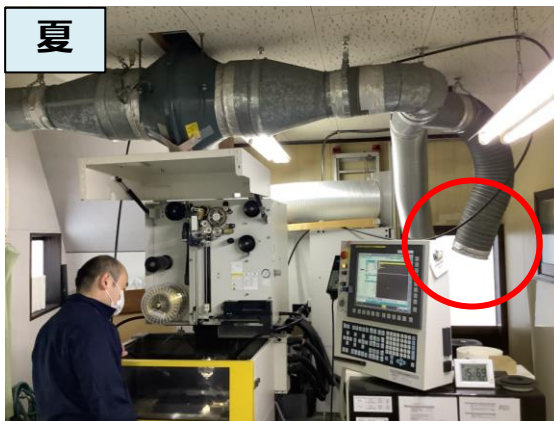
◆エアーガンのエアリークチェック 実施日：2022/6/6

工場のエアーガンのエアリークチェックは、毎年暑さのピークを迎える6月前の実施すること決め、エアー漏れなどの無駄なエネルギーの使用を防ぐために今後も継続していく。



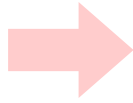
◆機械からの排熱の利用

冬季はワイヤー放電加工機からの排熱を工場へ送り込み、寒さ対策に利用している



◆エアコン使用基準に基づいた使用

社内の各場所ごとにエアコンの温度設定を確認し、使用基準をスイッチのところに掲示している。継続して作業環境をと問えながら気候や状況に応じた対策をとる。梅雨時期の湿度対策にも重点を置き、場所ごとの調査を記録して基準の見直しを行う。



エアコン使用基準【事務所】							
設定	つける基準	目標	基本設定温度	設定下限	風量	風向き	
冷房	室温29℃以上、湿度55%以上	室温：28～29℃	28℃	27℃	自動	自動	
除湿冷房	室温28℃以下、湿度65%以上 ※	湿度：50～60%	28℃	室温-2℃まで	自動	自動	
暖房	寒いと感じるとき	室温：20℃	20℃		自動	自動	

※または用紙がうねるなど仕事に支障が出る場合
 ・温度調節や入切は状況に応じて各自の判断で行うこと
 ・上記設定のほか、サーキュレーターで空気を循環させる

【タイマー設定登録内容】

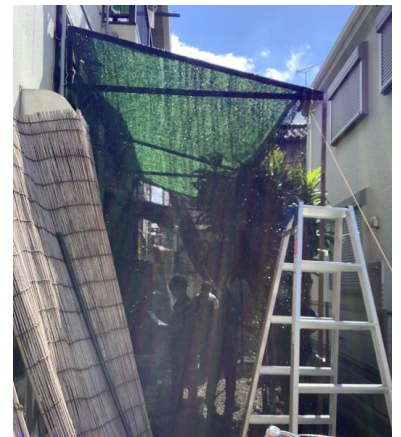
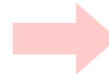
設定	設定№	設定温度	ON	OFF	曜日	風量	風向き
暖房	シーズン1	20℃	6:00	21:00	月～金	自動	自動

※長期休みの前はスケジュールタイマーを無効にする

★足元の冷えにはストーブ！
 ★ウォームビスも忘れずに！

◆夏の日よけ対策

コンプレッサー室や、工場への夏の日差しを避けるため、すだれやビニールシートなどで対策を行っている。



CO2排出量の削減 ◆灯油使用量の削減

◆灯油購入量と使用量の削減

今期もエアコンの暖房をメインに使用し、灯油の購入量を最小限に抑えた。今後も作業効率向上のために作業環境を整えながら、環境負荷低減を目指しストーブはスポット的に使用を行う。

CO2排出量の削減 ◆ガソリン

◆エコドライブの推進

弊社でのガソリンの使用は営業活動が中心なため、使用量についての目標は定めていない。エコドライブについては意識が薄れないよう、運転席に資料の掲示を行っている。

◆燃費の管理

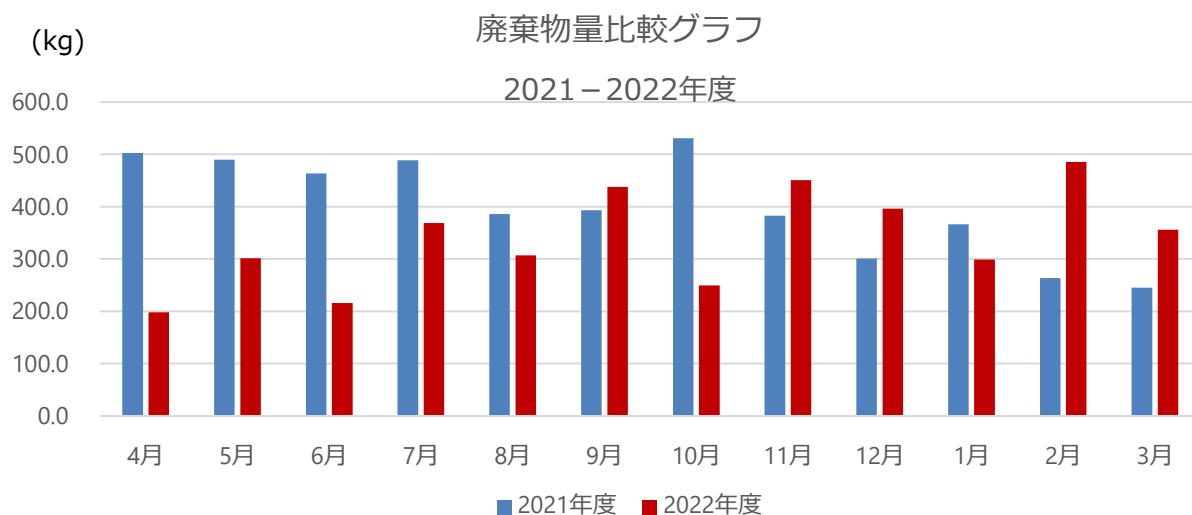
給油時の記録シートにて燃費の確認を行った。今期もコロナ禍の影響で直接客先への納入や訪問営業は少なかったが、来期以降は増加が見込まれる。今後も可能な限り燃費管理を行っていく。

廃棄物削減 ◆廃棄物量の集計

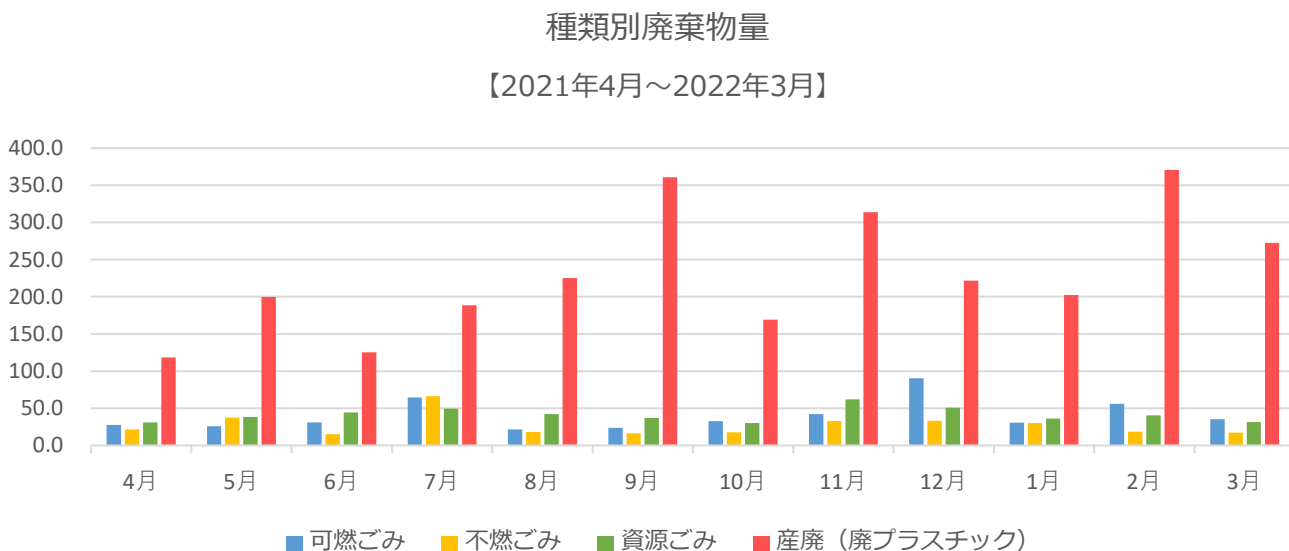
〔廃棄物の集計方法〕 ごみの収集日に、場所、種類ごとに自分たちで測定し、手書きの表に記入。月ごとに担当が集計しグラフ化する。(グラフ3・4)
 前期、改善した管理表の使用で入力・集計時間が短縮され、以前よりも分かりやすい記録に改善された。
 また、金型を洗浄する際に使用するパーツクリーナー(スプレー缶)について、環境負荷を減らすために使用量の削減を目指し、今期より使用量把握のための廃棄本数の集計を開始。(次頁〈表1〉)
 繰り返し使用可能な「洗い油」で対応可能な場合は代用を推進している
 来期以降も継続しデータの比較を行い、削減につなげるようにしたい。

〔廃棄物量報告書〕 前期との廃棄量の比較や種類別のグラフを毎月回覧し、削減の意識を高めている。

〈グラフ3〉



〈グラフ4〉



<表1>

【2022年度 パーツクリーナー使用量】

2022年									2023年				単位(本)
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
5			15	16	12			13			11	72	

廃棄物削減 ◆廃棄物削減の工夫

今期は、廃棄量が多かった前期と比べて全体では5%程減少した。

特に産業廃棄物は前頁の〈グラフ2〉の通り主に成形作業による廃プラスチックであるが、今期は前年費75%程に減少した。

一般廃棄物は14%程増加したが、工場内で金型や材料が届いた際の本製パレットを可燃ごみとして12月に整理し廃棄したことや、従業員数の増加も影響していると考えられる。

弊社は主に試作開発、研究に係る案件が多く、プラスチック材料の再利用が不可の場合もあるため廃棄量が増える傾向にあるが、以前のように長期保管をせず、取引先からの支給材料は使用後に速やかに保管や返却の確認を行い、廃棄量を少しでも減らせるよう取り組みを行っている。

また、環境に配慮した材料を使用した自社製品の販売も継続して行っている。

私たちの活動が環境負荷低減につながり、地球環境の保全に役立てるよう今後も活動を続けていきたい。

また、成形時の材料を少しでも削減するため、来期はチームを結成し、金型製作時のスプールとランナー部分を小さくするためのテスト・検証を行い、基準を作成し本格的に取り組むこととした。

廃棄物削減 ◆ダンボール

◆再利用マーク（エコマーク）の活用

継続して取り組んでいる発送ダンボールの再利用シール貼付について、目標は**35%**としているが、量産品では梱包仕様が決まっているため再利用ができない場合も多く、前期とほぼ変わらず25%程度の再利用率となった。

サンプル品の発送の際や加工依頼時などは、可能な限り部品購入時のダンボールを再利用するよう呼びかけを行った。

また、再利用率向上のために保管場所を整理の整理をして、大きさごとに手に取りやすいよう工夫している。

取組を始めてから4年目となり、お客様から送られてくる品物に、弊社で貼付したエコシール付の段ボールを見かけることが増え、効果を実感できた。

今後もこの取り組みが広がるように取組を続けていきたい。



【再利用シールを使うメリット】

- ①社内でのデザイン案から全員の投票で決めた親しみのあるマークで、楽しく取り組める。
- ②毎月末に各大きさごとのシールの残りの枚数を数えることで集計時間の大幅な削減ができる。
- ③あえて社名を入れず、発送先のお客様に更に再利用をしてもらいやすくすることで、エコ活動の拡散につながる。

廃棄物削減 ◆上質紙の削減

- ◆上質紙の再利用については、徹底した裏紙の使用が出来た。
今期の裏紙使用は**A4用紙で約4700枚分**（月平均392枚を再利用）
基本的な印刷を裏紙専用力セット設定している効果が高いと感じる。
- ◆上質紙の使用量を減らすため、A社内書類で変更が可能なものはA4サイズからA5サイズへと変更した。その結果、掲示場所の書類が整理しやすくなる効果があった。
- ◆FAX受信時はなるべく上質紙を使用しないよう、各担当に内容の確認をしてから必要な分のみ印刷し、不要なものや画面確認のみで対応できる場合は印刷をしない取組を行っている。
今期は**A4用紙で275枚分を削減**できた。（月平均約23枚）
- ◆複数コピーをした際は設定をクリアすることを呼びかけ、印刷ミスを無くすよう呼びかけをした。

水資源 ◆水道使用量の調査

今期も毎日朝と夜に水道メーターでの実測値の記録をとり、請求明細との照合を行った。漏水があった場合の早期発見につながるため今後も継続して行う。

今期は水道使用量の管理会社からの漏水確認依頼が2回あり、作業終了後にチェックを行い、漏水は見られなかった。

また、水の出しっぱなしがあった場合は情報を共有し無駄な使用を減らす意識付けを行った。

2017年7月の成形機用チラー(空冷式冷水循環装置)の導入以後、水の使用量が減少し毎月20m³～25m³程度で安定している(グラフ4)

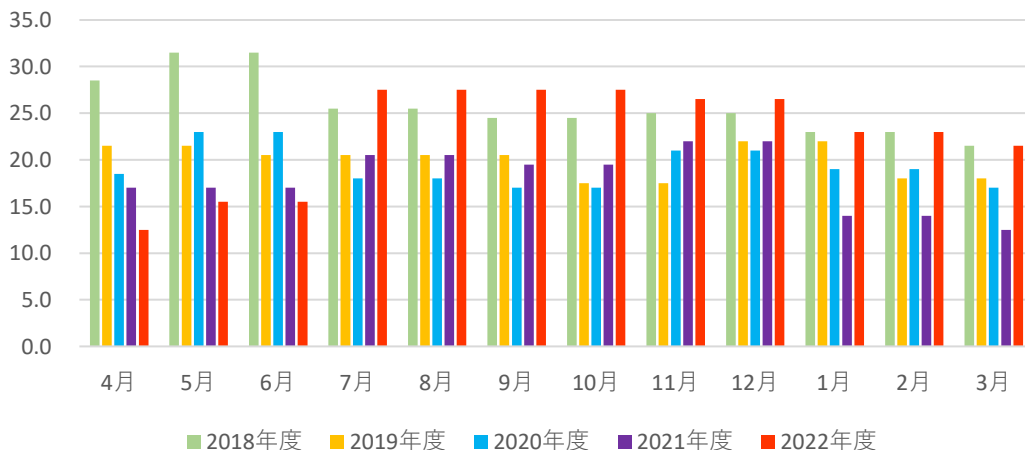
チラーは3台の射出成型機すべて金型を冷やす際に活用している。

また、成形機ホッパー下の温度の最適化を材料ごとに再設定し、生産工程の見直しをし作業の効率化をすすめた。今後も継続して活動が続ける。

〈グラフ4〉

水道使用量比較グラフ

2018－2022年度



化学物質

薬品棚の確認をし安全に管理を行っている。使用の際は薬品使用メモへの記入をする。
来期は化学物質管理表の見直しを行い、購入量の記録を行う。使用量は作業に負担がかからない効率的な方法を決めて管理する
※当社は洗浄剤と防錆剤で少量の薬品(PRTR対象外)を使用をしています。

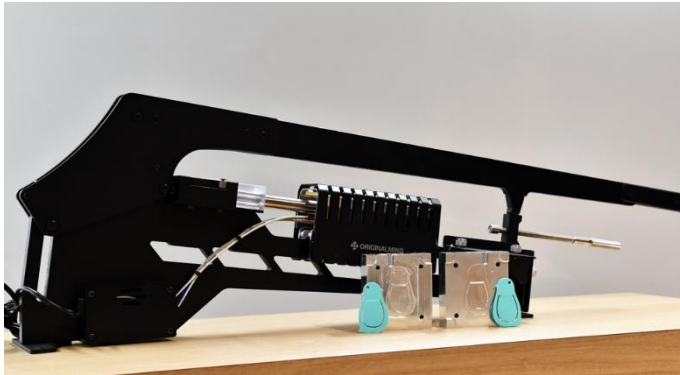
自社の商品・サービスの提案推進

◆交換ダイセットについて

金型作成時、製品に関わる部分のみを交換し、共用出来る部分は共用する仕組み。
必要部分のみの製作となるので工期の短縮が図れ、材料も節約できる。
保管場所も少なくできるというメリットがあり、環境負荷低減にもなるため、可能な限り提案し推進している。今期の受注金型のうち**85%**は交換ダイセットで作製した。

◆自社製品の開発・販売

環境に配慮した材料を使用した自社製品の販売を継続して行っている。
今期はECサイトでの販売にも力を入れ、環境に配慮した素材で長く使っていただけるもの、世の中にないものを全員で話し合いながら製作を行った。
私たちの活動が環境負荷低減につながり、地球環境の保全に少しでも役立てるきっかけとなるような活動を今度も続けていきたい。



手動射出成形機『INARI』



『INARI』を使用して成形したクリップ



柄の長いスプーン『SNOPPO』

【左の写真の成形材料】上から

〈ライスレジン〉

お米(非食用)由来の国産バイオマスプラスチック。とても滑らかな質感。

〈NEQAS OCEAN〉

透明性があり、高い生分解性を持つ海洋生分解性樹脂。プラスチック問題を覆す環境性の高い素材。

〈PP〉

国内でよく使用される合成樹脂。軽量で耐熱性、耐薬性に優れ、つやがあるのが特徴。

〈トライタン〉

医療器具製造の会社が開発した「コポリエステル樹脂」という合成樹脂の素材。高い透明度、耐久性、安全性が特徴。

その他の活動 ◆防災

◆工場のラインテープ

1. 地震などの災害時の対策として、工場の通路の安全を確保するため、通路や、機械の稼動範囲にラインテープを貼り安全を確保している。また、通路以外でも機械が動いた際の危険箇所はテープで囲い、物を置かないように対策をしている。
また、防災担当だけでなく毎月の点検当番がはがれた箇所が無いかのチェックを行い、協力して管理を行っている。



◆AED講習

2022年12月に急病患者に対する対応とAEDの使用の仕方を学んだ。

◆消防設備点検

2023年3月に専門業者による消防設備点検を実施。

◆社内の危険箇所の改善

金型保管棚からあふれて足元が危険だったので、整理と有効活用のための配置換えを行った。

◆来期は消火器訓練と避難訓練を予定している。



AED訓練の様子



金型保管棚(整理前)



金型保管棚(改善後)

その他の活動 ◆地域とのコミュニケーション

◆清掃活動

2014年度から継続していた毎週金曜の朝の社屋外周と周辺道路の清掃活動について、今期は社内・社外を含めた各場所の清掃当番を決め、一週間ごとに場所を移動して毎日行っている。綺麗な環境を保ち、地域住民の方との挨拶や会話など、積極的にコミュニケーションをとりながら今後も良好な関係を築いていけるように活動を継続していく。



◆かつしかライブファクトリー

2019年から毎年秋に、葛飾区の製造業と協力し、ものづくり文化を知ってもらうためのイベントとしてオープンファクトリー、ワークショップを開催している。

4回目となる今回、参加いただいた方に「柄の長いスプーン【SNOPPO】」の製造体験をしていただいた。

古くなって使われなくなったお米を配合したバイオマスプラスチックでの製品づくりに好評をいただいた。また、環境に配慮した活動を地域の方々にも知っていただける良い機会となった。今後も『捨てられないものづくり』『人の役に立つものづくり』という企業理念のもと、必要とされるものを環境に配慮した素材で製作していきたい。



企画会議の様子



ワークショップ風景



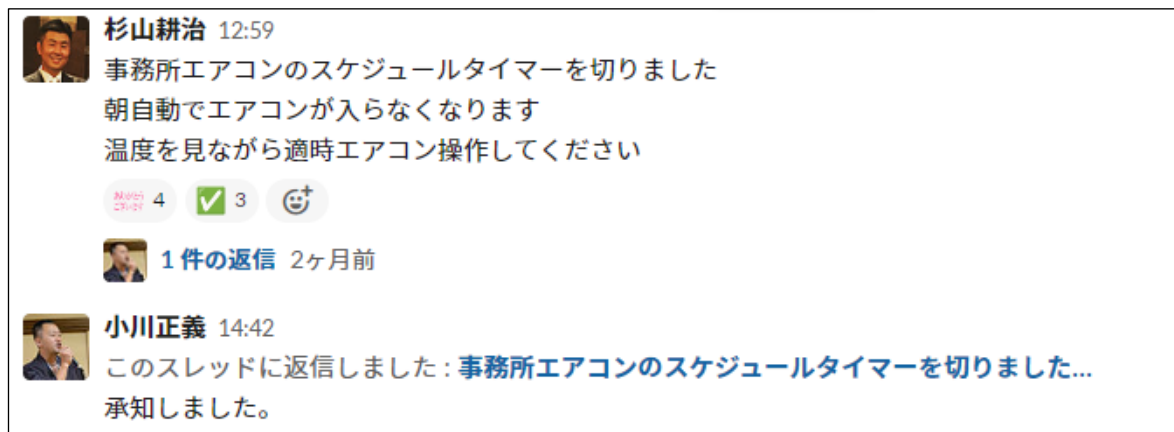
柄の長いスプーン
【SNOPPO】

その他の活動 ◆環境コミュニケーション強化

◆slackで情報共有

2022年6月より、エコアクション2.1の活動の社内の情報伝達方法をして新たにslackの活用を開始。気付いたことや実施内容をすぐに共有できるため、情報伝達だけでなく、対策を実施するまでのスピードも上がった。

〈省エネ関連の設定変更は是認に連絡し周知〉の投稿実例



設定や仕組みの変更は管理者だけが把握するのではなく、社員全員が把握できるようにする

〈気付いたことを投稿し即座に情報共有〉の投稿実例



問題発時は即座に全員に共有。犯人探しは行わず、同じような問題が起きないように意識付けを行う。当たり前のことでも出来ていなければみんなで再確認する

【来期の目標数値】〈2023年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 (●ガソリン※1)	2022年度実績値 より－2% ※2
廃棄物削減	2022年度実績値 より－2%
ダンボール再利用率	発送件数に対して35%
水資源	2022年度実績値 より－1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進 環境に配慮した材料での自社製品の開発と販売

◆CO2排出量の削減【電気使用量・ガソリン・灯油】

- ・エネマネシステムを活用したピーク電力の管理
- ・使用していない場所の電気をこまめに消す
- ・エアコン使用基準の確認と見直し（特に湿度対策）
- ・エアーガンのエアーリークチェック（6月に実施予定）
- ・ストーブのスポット使用
- ・ガソリンの燃費チェックとエコドライブの周知と徹底

◆廃棄物削減【ゴミの排出量・ダンボール再利用・上質紙再利用】

- ・ごみの排出量の集計と回覧
- ・廃プラスチックの削減の工夫
- ・エコシールの活用と再利用率35%に向けた呼びかけ
- ・上質紙の分別と再利用の徹底
- ・印刷ミスを減らすための対策と呼びかけ
- ・データ管理による紙の使用の削減

◆水資源

- ・水道メーターによる使用量の確認
- ・成形機チラーの有効活用
- ・節水の呼びかけ

◆化学物質

- ・安全な管理と使用量の調査
- ・購入表の作成と運用方法の決定

◆自社の商品・サービスの提案促進

- ・交換ダイセットの提案促進と集計
- ・環境に配慮した自社製品の開発と販売

◆防災

- ・消火器訓練の実施
- ・社内の危険箇所の確認と対策

適合環境等法令	該当設備	順守状況
騒音規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
振動規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
廃棄物処理法	廃プラスチック 廃金属 廃油	委託契約
消防法（少量危険物）	放電加工機（加工液） 第4類2石	少量危険物貯蔵掲示
フロン排出抑制法	業務用エアコン11台	3ヶ月ごとに簡易点検

該当される関連法規において確認した結果、違反事項はありませんでした。
また、過去3年間での訴訟、行政処分、関係当局等の違反はございません。

◆電気の使用について**【良かったこと】**

全社員、節電意識はついてきており無駄な電気の使用はほとんど見られなかった。

断熱効率を考慮して今期はブラインドの設置（事務所の一部）も行っていた。

今期は電気代の高騰に伴い、灯油ストーブの併用もしていた。エアコンは室内全体の温度管理を行うが、部屋の中には寒い個所があり、灯油ストーブを部分的に活用することで全体の設定温度を上げずに適温にするのは、臨機応変に対応する良い取り組みだったと感じている。

【課題、改善点】

昨年につづき、コロナ禍で換気しながらのエアコン使用は効率が悪く、電気使用量の増加につながっていた。社屋の断熱効率を上げつためにもビニールカーテンの設置は今期の予算を見ながら検討する。コンプレッサーの設定圧力に関しては機械の経年劣化、経年変化が考えられるため、毎年機械側の圧力値を確認しながら設定値の調整をしてほしい。

成形室のチラーから出る廃熱は排風機につなげるなど対策が必要。

◆廃棄物削減について**【良かったこと】**

材料高騰に伴い、材料の余剰使用はほとんど見られなかった。

新しい社員が入っても廃棄物の分別は全社員適正に行えており、環境教育ができていると感じた。

【課題、改善点】

廃棄物の大部分を占めるプラスチックだが、製品に流れるまでの湯道であるスプールとランナに関しては設計と成形条件で減らせる可能性があるため、来期はスプールランナの使用量最小化に向けた実験と適用を行う。

また、廃棄するプラスチック材料に関しては、買い取り業者に相談するなど廃棄ではない方法を検討する。弊社で在庫で持っている材料に関しても、長期保管は望ましくないため、小売するなどして必要としている人に、必要な量を、必要な時に販売できる仕組みづくりに取り組む（ECサイト）

◆水道使用量について**【良かったこと】**

水の使用に関しては無駄な使用は見られず適正に使用できていると考えられます。

【課題、改善点】

蛇口から少量の水が出続けることが無いよう、蛇口のコマ（節水コマ）を交換する。水道のコマ交換の頻度を決め、いつ交換したかを記録する。

総括

身近でできる省エネは社員全員で行っていたと考えている。

工作機械は経年劣化するため導入時の状態を維持していると考えず、1年に一回、圧縮空気の設定値が適正か、エアリークがないかなどの点検は定期的に行う必要があると考えている。どこが劣化し、どこを確認するべきかは今後マニュアル化していきたい。

材料の高騰に伴い、不要な材料の廃棄、切削くずの廃棄などは活用方法を再検討していく。

事業面では、新たなプラスチック材料の活用に入力したい。従来の石油由来のプラスチックから、使われなくなった資源（卵の殻、コーヒーかす、貝の殻）、植物由来や天然資源を活用したサステナブル素材の需要が増している。ミヨシでは積極的にサステナブル素材の活用に向けたテスト成形や自社製品として販売することで、プラスチック製品に含まれる石油資源の減容に取り組んでいきたい。